

パラグアナ半島

足立 潔史

パラグアナ半島はベネチアのラカベ湖の東側のカリブ海に突き出た半島で、もともとは島だったものが砂洲で本土とつながって半島となった。半島は青森県の下北半島のような形をしており、本土とつながる砂洲の部分には砂丘が発達しており、砂丘の間には干上がった塩湖が散在している。島の部分は中央に標高 870m 余りのサタアナ山がある他は全体に平坦で、常にカリブ海からの東風が吹き抜け、サテンが多く見られる乾燥地帯である。半島の西側の都市ポイントフィ近郊には大規模な石油精製所があり、幹線道路に沿ってパイプラインが張り巡らされている。今回の日食では半島全体が皆既食帯に覆われた。

半島が位置するファルコン州では、日食の観測地をポイントフィの北のロス・タスという街から、海岸に降りた海水浴場の北のはずれの、エル・ピコという場所に指定しており、州の主導で指定地域の整備をしていた。指定された観測地は南側がすぐ海岸線で、南東方向に湾を挟んで石油精製所を遠望し、さらにその向こうにはサタアナ山がかすんで見えた。海岸にはなぜか閉まったままのリストハウスのような建物あり、その周囲の砂地が整地されテフを張って、観測許可証を持った人だけが中に入れるように軍によって警備されていた。

海岸は定常的に東側から 5m/s~10m/s の風が吹き、砂が舞っていた。従ってリストハウスの建物を風除けに使用して、建物の西側に観測者は集中した。観測地には地元のテレビ局ベネゾンの中継車が入り、地元の観測者も多かった。日本からの観測者は約 70 名で、移動用の大型バス 2 台を風除けにして、バスの西側に身を寄せ合うように小さくまとまった。

観測者の中には、今回初めて皆既日食を見る人も多くいた。

日食に入る前の気象状況は、快晴、東の風 5m/s~10m/s、気温 34℃、湿度 50%。

日食中の最低気温は 28℃。風のせいで暑さはそれ程苦にならなかった。

シャドーバンドの見え方は不明瞭で、見えた人、見えなかった人があった。

皆既中の空の明るさは、それ程暗くならず、機器の操作に不自由するようなことはなかった。

細長く広がったコトの近くに木星と水星が輝いて印象的な日食風景だった。

知らぬ間に地元の見物人が大勢ファルコン州の州都コロ市方面から車で集まっており、陽気なベネチア人の歓声と口笛と花火で、お祭りのように大変賑やかな皆既日食となった。

日食後、外国からの観測者には州知事と市長から歓迎の挨拶があり、全員に日食をデザインしたTシャツがプレゼントされた。

観測地撤収後の帰路、砂洲の中の本道は延々車の大渋滞となってしまった。

渋滞に巻き込まれたバスの窓から西側の海に沈む赤い大きな夕日が見えた。